

今回は目の病気についてのお話です。

ワンちゃん、ネコちゃんたちにも目の病気はたくさんあり、ちょっとした炎症など軽い症状のものから失明をしてしまうような重い病気までさまざまです。今回は



宮川 慎

その中から、遭遇する頻度が高くて、いずれも目を開けづらそうにする疾患の一部を紹介したいと思えます。初めに角膜の疾患について説明します。角膜とは黒目の表面の透明な膜のことです。

角膜に傷

角膜の疾患で特に多いのが角膜潰瘍です。角膜に傷が付いてしまつ、いわゆる目の傷です。原因としては、シャンプー後にタオルで顔を拭いたり、座布団やクッションで顔を擦りつけたり、散歩中に草と接触したりすることが多いようです。中にはまつげの異常やまぶたの出来物が原因になることもあります。角膜潰瘍が発症すると、痛い方の目をかばうように閉じたり、まばたきをたくさんしたり、

アイビー動物病院院長  
(射水市戸破)

目の病気

痛みで食欲減退も

涙を流すようになります。人間も目にゴミが入ると痛いですが、ね。その目を傷つけるのですから、痛みが強さが想像されるのではないのでしょうか。

治療は基本的に点眼で行います。軽度であれば数日で自然に治りますが、悪化するとデスメ膜という角膜の内側の膜が飛び出して角膜の修復を妨げてしまい、点眼治療だけでは治らないこともありますので早めの受診をお勧めします。

次にブドウ膜炎と緑内障とい

れま。遭遇する機会が多いのは外傷などによるものですが、伝染病を発症したネコちゃんに見られることもあります。

失明の恐れ

ブドウ膜炎を起すと激しい痛みがあり、結膜・強膜の充血や目の白濁、眼内出血が見られたり、痛みで瞳孔が縮小したり、目を開けることが困難になったりすることがあります。痛みが強い子は食欲も落ちることもあります。

きなくなるほど眼内圧が上昇した病態です。この病態が続くと視神経などが損傷して失明に至りますので、ただちに治療をする必要があります。

最後に白内障についてです。

白内障は目のヒントを合わせる眼内レンズの水晶体が白くなつて見づらくなる病気です。すぐに痛みを示して目を開けにくくすることはないのですが、進行すると炎症を引き起こすことがあり、前述のブドウ膜炎などの炎症を引き起こすことがあります。

う病気です。ブドウ膜とは目の中の血管膜の総称で虹彩、毛様体、脈絡膜から成ります。発症する原因は、前述の角膜潰瘍や打撲などの外因性によるものや、目の中の腫瘍や白内障、感染症、自己免疫疾患、寄生虫などの内因性によるものが挙げら

また、ブドウ膜を構成している一部の器官では、眼房水の生産と吸収を繰り返しています。が、この部分で炎症を起こすと眼房水の還流ができなくなり、眼内圧が上がって緑内障に発展することもあります。緑内障とは視神経と網膜が正常に機能で

す。水晶体は柔軟性があり、その厚みを変えることでヒントを合わせますが、白内障の進行とともに柔軟性が失われて固くなり、末期になると水晶体が脱臼して目の中で暴れて甚大な障害をもたらすことがあります。

目の病気は今回紹介していないものもたくさんあります。緊急性のあるもの、上手に付き合っていかなければならないもの、生命を左右するものなど多様です。ペットの目に異変を感じた場合は早めに受診することをお勧めします。



目の表面に傷が付く角膜潰瘍。軽度であれば点眼治療で治る



末期の白内障。水晶体が脱臼した状態

「いつも一緒 富山のペットたち」はリニューアルし、次回から毎月第1火曜に掲載します。